

平成 29 年度第 3 回天守復興部会会議録

日時：平成 29 年 8 月 18 日（金）14：00～15：30

会場：熊本市議会議運・理事会室

出席委員：伊東（龍）委員、今村委員、谷崎委員、富田委員、永田委員、西村委員、
西嶋委員、毛利委員、

オブザーバー：平井委員長

熊本城総合事務所：津曲所長、野本副所長、濱田副所長、古賀技術主幹

熊本城調査研究センター：網田副所長、美濃口主幹兼主査 他

1 開会

2 熊本城総合事務所長 挨拶

津曲所長	<p>熊本城総合事務所の津曲でございます。天守復興部会第3回の開催にあたり一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>委員の皆様方には大変お忙しい中、ご出席を頂き感謝申し上げます</p> <p>本日の部会は、4月と6月の天守復興部会に引き続き、第3回となります。過去2回の部会において「耐震化」「バリアフリー化・ユニバーサルデザイン」「内装・展示の刷新」「展示（案）」等について、委員の皆様より様々なご意見をいただきました。本日、第3回目は、いただいたご意見を反映する形で、「展示構成（案）」「展示ゾーニング（案）」などの資料を準備しております。天守閣内の展示・内装について、これら資料を審議の材料として使っていただきながら、活発なご議論をいただきますよう、お願い申し上げます。</p> <p>なお私どもの業務報告と致しまして天守閣の「展示・内装基本設計業務委託」については、株式会社大林組と7月に正式に契約をいたしました。委員の皆様から賜りましたご意見については、順次この「基本設計」に反映させながら、業務を進めてまいります。</p> <p>その他のご報告と致しまして、8月4～6日の3日間、「オープンハウス」と題したイベントを開催しました。上通・下通で熊本城復旧に関するパネル展示・応援メッセージを頂き、さらにはアンケート調査等も実施し、多くの市民・県民や県外の方々からも、熊本城復旧に対する様々なご意見をいただいたところです。さらに今月27日には、熊本城の復旧に関するワークショップの開催も予定しております。</p>
------	--

	<p>天守閣内の展示・内装につきましては、この部会はもちろん、市議会や市民の皆様のご意見も広く伺いながら、今後も着実に進めてまいりたいと考えております。</p> <p>皆様、本日は何卒よろしくお願い致します。</p>
--	--

3 審議事項

(1) 天守閣展示の検討状況について

・(資料1)に基づき事務局より説明

西嶋委員	<p>対応策①に関連して、マスタープランは全庁的な議論によって検討されているとあったが、具体的に検討が進んでいるのか？</p>
事務局	<p>庁内連絡会議を観光政策課・文化振興課と開催している。連携などがあるので、時間をかけての内容になる。</p>
西嶋委員	<p>熊本城が被災したことによって有料域が休止して、今までは入場者数という定量的な数字がターゲットになっていたのが、これからは進化させて定性的な評価をしていかないといけない。熊本城の歴史を観光客・市民が体験、さらに深めるという場になっていくかというのが、今回の展示内容の見直しを含めて問われている。どういう風に歴史体験をしてもらうのが良いのか、どういう風に見てもらいたいと我々は思っているのかを、もう少し時間はかかるのかもしれないが、全庁的に固める方向で具体的な議論をする場を作って頂きたい。作業するマンパワーも必要でしょうから、是非そういう場を作って、相乗効果が出るような形にもって行ってほしい。</p>
事務局	<p>天守閣の姿が少し見える 2019 年は、スポーツイベントがあり、熊本城ホールの姿も見えてくるし、シンボルプロムナード等の再開発もかなり進んでくる。中心市街地のなかで熊本城が果たす役割が非常に重要であることは庁内皆が認識している。関係各課、皆でしっかりと考えていかないといけないことは十分認識している。話し合いの場をしっかりと作っていく必要があると考えているので、十分検討させて頂きたい。</p>
毛利委員	<p>現在の天守閣の被害の状況、修復工事の進捗状況等について、湧々座に 8 月 5 日から定点カメラが置かれ、ライブで熊本城内の現状を見せて頂いた。今日のような部会があるのであれば、天守閣周辺がどういう工事の進捗状況なのか、天守閣内部の各層の被害状況がどのように修復されているのか、最初に聞いたかった。分かる範囲で説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>天守閣の被害状況については、昨年 11 月に耐震診断を実施し、柱や梁についてはクラックが入っている状況。最上階の大天守 6 階は構造が別構造なこともあり、柱脚の部分が破断している。今年 4 月より大天守 6 階については一度解体し、柱脚の部分については補強しつつ工事を進めている。ま</p>

	た、足場を設置し、外壁・内装材を撤去しながら壁の状況を確認しているところだが、クラックなどが入っているので補修という形で、調査を含めて工事を進めている。屋根材については、最上階部分はほとんどの瓦が落ちていた状況だが、下の階の方は瓦を一度下ろし、一枚ずつ状況を確認して使える瓦を分別して元に戻していく、という作業を進めている。
毛利委員	天守のしゃちほこが修復されていると思うが、関連施設にしゃちほこを展示するという話を聞いている。熊本城内の検討しているスペースのなかに天守のしゃちほこを展示するとか、記念写真を撮るスペースは検討されているのか。
事務局	天守の中で鯨を展示することは、今からご意見を頂く中で考えなければならないと思っている。従前は天守の中に鯨も展示していた。そのことも考慮しながら、全体の展示バランスあるいは物理的配置の問題もあるので、撮影ポイントまでできるかどうか、配置計画を検討する中で考えていきたい。先ほどのご提案も一つの判断材料とさせて頂いて、具体的な展示計画を進めてまいりたい。
平井委員	先ほど説明いただいた 2 の対応策についての①だが、周辺施設との連携補完について、桜の馬場は時限のはずだが、いつまで存続すると考えているのか伺いたい。
事務局	城彩苑自体は PFI 事業で、20 年間という契約となっている。20 年後をどうするかということについては、明確に廃止するか存続するかという結論に達しているわけではない。状況を見る中で、継続するかどうかは判断すべきことと思う。一つの目安としては、城彩苑の当初の 20 年間というのを目途に考えなければならないと思っている。今後、展示内容も震災復興からの次のステップということも考えられるので、当面は震災に関することを織り交ぜながら展示し、その後さらに更新時期が来れば、そういった施設も合わせて考えていかなければならない。明確にいつまで、というのは現時点で言いにくいですが、そういう観点で進めさせて頂きたい。
平井委員	20 年というのは文化庁との関係もある。文化庁が 20 年以後も継続してもらえんことを考えているのか。
事務局	文化庁とも 20 年後をどうするかという具体的な話までは、その時点ではしていない。今後そういう問題もしかるべき時期に申し上げなければいけないと思っている。
平井委員	文化庁としては 20 年後撤去するという話で進めていると思うので、よく相談しておかないと、湧々座が継続できるという前提で進めるのは危険ではないか。
毛利委員	④城下町模型の展示演出について、私は城下町を 10 年間、年間 30 回なの

	<p>で 300 回以上グループをご案内している。案内した人に熊本城の城下町の魅力は何か、熊本に転居してきた人に対してはどのような城下町であって欲しいか、という質問をする。外から来たお客さんは熊本城と城下町は一帯で考えている。城下町の歴史や文化、芸能、食文化、建造物など歴史的遺産を含めて、熊本の魅力がある。もう一つよく言われるのは緑景があるということ。熊本城周辺には緑景といえる公園を含めた場所がいろいろある。模型の中にそういったものを散りばめられたら、熊本城がさらに引き立つと思うので、模型を作る時にはそういった背景を考えてもらいたい。</p>
今村委員	<p>今まで天守閣内部に城下町模型が展示されていたが、範囲としては同じ程度の模型を作るのか。</p>
事務局	<p>前回部会でも毛利委員からご意見頂いたので、既存の模型を改修するのか、新たに模型を作ったほうがいいのか、今検討させて頂いている。</p>
今村委員	<p>人形が動くというように書いてあるので、全く別の模型を作るのか、範囲としても惣構の中だけになるのか、全体構想としてどのように市で考えているのか聞きたい。</p>
事務局	<p>ご意見を踏まえて検討を進めているところなので、次回あたりに整理させて頂いたものを提示したい。</p>
平井委員	<p>城下町の模型について、今できているものの根拠は何か。</p>
事務局	<p>当初は市庁舎の 1 階においてあった。どの部署が管轄してやったのか、経緯は詳しく存じ上げていない。</p>
今村委員	<p>博物館で作ったもの。富田委員が詳しい。</p>
富田委員	<p>今作ってある模型は 500 分の 1 なので、人間は見えるか見えないか。何分の 1 にすれば人が動くような模型になるのかなと思っている。市庁舎が新しく出来たときなので、35、36 年前、議員の要望で作った。最初のうちは市役所の 1 階フロアにあったが、邪魔になるということで、火の国フェスタのとき、天守閣の展示がリニューアルされた際に移設を行なった。模型は金属製で、ミニカーのトミカと同じ素材。櫓は一品作り。波奈之丸のあとに模型を持ってくるのであれば、最低倍の 250 分の 1 は必要。出典は永青文庫の「紙図」（御城図）を建築の方に図面にしてもらった。受けた業者はアジア航測という地図屋だったので、図面作りは上手かった。模型製作後に分かったことも沢山あるので、できれば作り直してもらいたいが、35、36 年前に作った当方で 2400 万円かかった。</p>
平井委員	<p>お城のほうは分かったが、城下町の方は何を根拠にして作られたのか。</p>
富田委員	<p>根拠はない。</p>
平井委員	<p>今度作る時は、西南戦争の被害届にある平面図を使って頂きたい。元熊大の北野先生と今日話したが、北野先生も武家屋敷については論文を書か</p>

	<p>れている。平面図はかなりの部分分かる。どこの建物というのも分かるので、完全に根拠のあるものを基準にして、その後はそれに倣って作るという形にする。全く根拠の無いものではなく、今度つくる時にはある程度根拠のあるものをきちんと作ってもらいたい。</p>
伊東部会長	<p>北野先生が論文を出されていて、武家屋敷が中心だったと思うが、城下町にこういう住宅があるとか、屋根葺き材なども分かっている。我々も当時の史料に書かれている場所が、現在のどこにあたるのかということは、少し特定できる所がある。母屋だけでなく附属の長屋門なども分かる。そういう史料もあるので使って頂きたい。</p>

(2) 天守閣展示と関連施設との連携・保管について

・(資料2)に基づき事務局より説明

平井委員	<p>湧々座はいつまで存続するかははっきりしないので、20年で撤去することを前提にしてやっついていかないといけないのではないかと。恐らく私としては、あの場所に熊本城のガイダンス施設を作ることについては、文化庁はOKするだろうと思うので、そこでどのぐらいのことができるのかというのを考えながら作っていただきたい。</p> <p>被災した熊本城VRは、何をどのようにするのか分からないが、せっかくNHKがあればだけのものを作ったので、それが放映できるような施設を考えてみてはどうか。大きいコンピューターでなければ使えないかもしれないが、コンピューター会社にかかかって、協力してもらうことも出来ると思う。あれだけのものを自分たちで作るとするのは不可能なので、考えてやっってもらいたい。</p>
事務局	<p>NHKとは協定を結んでいる。報道機関には、報道してもらおうと同時に映像も保存されるという観点で、NHKとも協定を結んで色んな記録を作ってもらっている。物理的にもNHKは熊本城の近くにあり、独自にVRを上映するという事も考えられる。様々な連携の形があると思うので、その一員としてNHKとも話をしたい。</p> <p>残念ながら私どもが管轄している所ではない湧々座とも連携しながら進めているが、今回お話を頂いたようなことも、担当課・関係者の方々と話をしながら、どういう形で貴重な映像等を活用できるかということを探求していきたい。</p>
西嶋委員	<p>先ほどのお城を体験していただくマスタープランと関連するが、今回は天守閣の展示と対応した関連ということになっているので、加藤清正の時代からとなっている。熊本城の歴史というのは、当然中世、菊池氏の時代からの歴史がある。全体のマスタープランの中では、古城地区や千葉城など</p>

	<p>の中世があって、その後加藤が始まるというような位置づけがされるべきなので、今回はもう一つ大きい枠組みを提示してもらったほうが、加藤清正の天守閣で何を訴えるべきかがより明確になってくると思う。近世になってから、これだけの関連施設の中でしか提示されていないので、例えば明治4年の洋学校・医学校の設置が、大きな枠組みの中では城域内で起こったことなので、西南戦争との関連や博愛社の結社と関係してくる。西南戦争でいえば、明治5年の明治天皇行幸のときは西郷隆盛が随行で熊本城に入ってきている。もう一つ大きい枠組みを次回提示していただくことで、それぞれの機能と補完関係がより見えてくると思う。全庁内の議論と平行して進めてもらいたい。</p>
事務局	<p>先ほど説明が不足しており、加藤時代・細川時代という説明になっていたが、「熊本城のはじまり」や「日本の城の中の熊本城天守」などの点については資料3で説明させて頂きたい。</p>
平井委員	<p>これは今更で、こういう風にしてもらいたいということではないが、「展示は大抵古いほうから始まる。」ということは、今の自分とは関係ないところから始まるので実感が湧かない。逆に、今から遡っていくという展示が私としては良いと思っている。福井県立歴史博物館でそれをやって、好評だったので、今自分たちが実感できるところからだんだん遡っていくという展示もあっても良いと思う。</p>
毛利委員	<p>先ほど西嶋委員から話があった、熊本洋学校・古城医学校、明治天皇の巡幸など近代の日本に与える影響が大きい。西南戦争に繋がっていくこともあるし、熊本の近代化の起こりでもあるので、天守閣あるいは関連施設の中での展示を是非指導して頂きたい。市立博物館のほうに書いてある藩校時習館も教育県熊本としては是非、時習館がどのようになっていたのか検証していければと思う。</p>
事務局	<p>そちらについても資料3のなかで、「熊本城と近代化」という点でご説明させて頂きたい。</p>
毛利委員	<p>熊本洋学校の話が出れば、当然ジェーンズ邸の話も出てくるでしょうし、古城のなかにジェーンズ邸があったことも示していただきたい。</p>
事務局	<p>ご意見十分理解した上で進めさせて頂く。ただ、天守閣の中でどの部分を展示するかは、物理的なスペースの問題もあるので、各施設でのすみ分けということになると思う。そういうこともあってこの表を作った。すみ分けたから全く話をしないということではないが、どこに力点を置いて展示するかという観点で、今後まとめなければいけないと思っている。すべてをどの施設でもやるわけではないというのはご理解頂きたい。</p>
毛利委員	<p>それであれば、市立博物館で洋学校・医学校を展示するよう指示して頂き</p>

	たい。
西村委員	資料 2 と資料 3 について一通り内容を聞いてからの質疑にしないと、2 は 2 だけ、2 に関連して 3 に飛ぶということになるので。大きな目的は天守閣の内部の展示をどうするかということなので、一通り説明を受けてからの質疑にはいかがか。

(3) 展示構成案・ゾーニング案について

・(資料 3) に基づき事務局より説明

西村委員	<p>展示内容 3 階近代のところ、「熊本城と近代化」というコーナーはスペース的にはあまり広くないと思うが、明治初めから昭和 20 年代までが軍政時代と呼ばれていて、熊本が大熊本市に発展した時期。軍都が敷かれたことで経済産業がどんなに勢いが伸びたか、人口がどれだけ増えたのか。軍都であるので南九州 3 県、宮崎・鹿児島・熊本の中心、六師団の本部が城内に置かれたということで、急激に発達した経緯もあるし、交通も非常に発達した。産業・経済における軍の役割は著しく多かったと思う。しかしそれは効果の部分であって、軍都であったおかげで、アメリカ軍から爆撃もあり、被害を相当受けていることも確か。その辺りも小中学生にも分かるように、功罪のことを知らしめて頂ければ。熊本城が近代のあり様としてどんな風に市民生活と密着していたかということ、ナレーションで結構なので、流す工夫をお願いできればと思う。これからの熊本市を背負って立つ人材に、お城が自分たちの生活に密着してきたかを少しでも分かってもらえるものになればありがたい。ナレーションで構わないので、その辺りの功罪が分かる工夫をお願いしたい。</p> <p>「昭和の修復・再建」というところに、昭和 2 年の宇土櫓の修復がなされたこと、これは特筆する事業と思う。もちろん 35 年の国体に合わせて天守閣が造られたことも特筆する事項だと思う。その間に昭和 28 年の熊本大水害があって、熊本市がほぼ浸かり大きな被害があった。その被害の後に熊本城がどのように役に立ったか。堀に災害の瓦礫を埋めたことを聞いている。昔空堀だったところが現在無くなっている。そういうことも羅列してもらいたい。今見ている熊本城しかほとんどの方は知らない。堀が潰れた古城堀端のあたりは、元々は堀があったはず。それが水害のガタ（泥土）をあそこに入れたという話を聞いているし、戌亥櫓の下の空堀にもかなり埋めたということも聞いている。私が知っているのは二、三だが、それ以上に水害で現状が変わったところがあり、そのおかげで熊本市民は非常に助かったということの特筆してもらえたらと思う。わずかなスペースでそ</p>
------	---

	<p>れが出来るかどうか分からないが、近代の歴史の一環として、お城が果たしてきた役割、被害者であるかもしれないが、市民生活の一端を処理してきたという歴史も残して頂ければと思う。</p>
事務局	<p>工夫して検討したい。3階というのはこれまでの展示ではほぼ全面が西南戦争の展示コーナー一色だったが、リニューアル後は近現代ということで、昭和まで加えたのでそれぞれの展示面積が限られてしまうのは間違いない。ナレーションも複数個所で展開すると、それぞれに反響しあって却って聞きづらかったりするのでは、検討して進めていきたい。</p>
西嶋委員	<p>平成9年から天守閣の登閣料を徴収しないという形で市のほうで進めてこられた。天守閣が再開すると市民も観光客もそれに注目して相当な数、登りたいという方が増えることが予想される。ある時点でブームが去って平常の状態に戻ったときに、有料ゾーンがどういう風になっているかというのも大きな問題だが、城内にアクセスした方がどの程度天守閣に登るのかというのも、中期的には想定したほうがいい。そういう時点を考えた時に、資料3の展示ポイントの「清正～西南戦争を中心に展開」「城全体ではなく、天守に焦点を置く」という二つは、どの程度強めるのか、先ほど他の委員から意見があったように、もう少し広げて網羅的に展示するかというのは判断が難しいところと思う。他の関連施設や、他の遺構との役割分担をより明確にしていかないと、天守閣の中ですべてが分かるようにして下さい、という風な声が上がってくる傾向が強くなるだろう。他の施設や展示や体験の場と上手に役割分担して、こういう風に回遊してもらいたいというマスタープランがないと、ここに全部を詰め込んでもらいたいという要望が上がってくる可能性がある。注意をして整理して頂きたい。</p>
事務局	<p>当然配慮していきたいと思っている。城内の関連するところ、我々はどちらかという点でしかないと思うので、点を面として広げることが各セッションで必要になってくる。ご指摘頂いたことは十分念頭に入れて、今後進めていきたい。</p>
平井委員	<p>今度のゾーニング案を拝見して、大変うらやましいと思った。博物館施設というのは初めから一通り全部回るという人は、必ずしもすべてではない。小学校・中学校・高等学校くらいの生徒だったら、恐らく今日は西南戦争のために見に行く、田原坂ではなくて近いからこちらに見に行く人もいるだろうし、細川時代のことが知りたいからと言って来る人もいると思う。その人たちが他の所を見なくてもいい。そこだけ見て帰ることが出来るというのは、博物館としては理想的だと思う。他の博物館に行くとしても縄文時代から回らないと自分の行きたい所へ行けないというのは、博物</p>

	<p>館としては非常に損だと思っているので、この展示は理想的だと思う。その点では大変うらやましい。ありがたいと思っている。</p> <p>例えば6階の古写真の展望の展示というのがあるが、VRが使えないのか。そういうものを使えば、皆さんが興味を持つような展示ができるのではないか。先ほどあったように、九州の中心というのは元々熊本だった。あらゆる物や役所も中心は熊本にあった訳だが、いつの間にか福岡にどんどん移ってしまっていた。それによって何が起こったのかという問題もきちんと認識しておいて欲しい。</p>
事務局	<p>6階の古写真については、具体的には資料を考えているところ。例えば長崎大学附属図書館のマンسفエルトアルバムというように、この資料を使いたいというようなもののリストアップをしているところ。パネルとして静止画で出すのか、VRや映像などの手法で演出をかけるのか、これから業者の知恵も借りながらより分かりやすい形に出せたらと思っている。6階は展望メインなので、その妨げにならないようには注意したい。</p> <p>明治初めの洋学校や医学校についても、私たちがリストアップしている資料の中には入れており、同じように長崎大学附属図書館のマンسفエルトアルバムなどから検討はしている。アドバイス頂いたところを検討しながら、より具体的な作業に入っていきたい。</p>

4 総括

伊東部会長	<p>まず資料1で、西嶋委員よりマスタープランをきちんと検討する場を設けてもらいたいということがあった。後半でもご意見頂いたが、きちんとしたものがないと展示を考える場合にも支障が出てくるだろうということだった。平井委員より、桜の馬場の部分は20年で使えなくなることを視野に入れて計画を作るべきだということと、ガイダンス施設としては許される可能性もあるから、そういう計画を書かれてはいかがかという意見だった。</p> <p>毛利委員より、熊本城下町の模型について以前からご意見を沢山頂いているが、緑景という熊本の城下町の魅力が伝わるような模型にして頂きたいという話だった。今村委員からは、模型を作る範囲はどうかというご意見があり、検討していくということだった。模型については、平井先生より根拠をきちんとして復元しないといけないということだった。西南戦争の焼失家屋の史料があるので、それに基づいた復元ができるのではないかという話だった。この部会では天守の展示を中心に話をしているが、毛利委員から現在の熊本城の天守を中心とする修理の進捗状況についてもお知らせ頂きたいという話があり、説明いただいた。それについても折に触れてお話頂ければと思う。</p>
-------	--

	<p>資料 2 について、熊本城天守閣と関連施設との連携・補完についてご説明頂いた。表に桜の馬場・湧々座の話が出てくるが、先ほど申し上げたような 20 年というように年限の限られたところの話で、将来を見据えた計画が必要だろうというご意見を平井委員より頂いた。同じく、マスタープランが大事だということで、西嶋委員からもお話を頂いた。特に中世からの歴史、明治以降の洋学校や医学校の話も大事ではないか、あるいは行幸の話も大事ではないかというご指摘を頂いた。毛利委員からも時習館やジェーンズ邸との関わりもあるということだった。全体の施設ごとの連携、特徴、役割分担をはっきりさせるなかで整理する必要があるだろうというご説明だった。平井委員からかなり展示の構想が出来上がっているが、現在から遡るような展示、より実感が持てるような展示のあり方というものもあるというお話を頂いた。</p> <p>資料 3 に関連して、展示構成案というところでお話頂いた。西村委員からナレーションを使って小中学生にも分かるような、特に近代の熊本の急激な発達に伴う功罪ということや、昭和 28 年の大水害の話も盛り込みながら、という意見だった。展示スペースが限られるという事務局の話もあったが、言って頂くとそういうこともあったと忘れずに必ず盛り込めるということで、大変ありがたいご指摘だったと思う。西嶋委員からマスタープランが大事で、本当に展示するものがどの部分になるのかという所でも効いてくるだろうということだった。登閣料を取る、取らないという話もいただきながら、関連してそういう話も頂いた。ゾーニング案について平井委員より、非常に理想的な展示計画である、ここだけ見たいというものが見られる展示計画になっているということだった。6 階に関しては、VR を使った展示もありえるのではないかとご指摘を頂いた。これに関しても進めていく中で事務局からもご検討頂けるということだった。</p>
--	--

5 その他（事務連絡）

事務局	<p>新聞等で報道があったとおり、日本たばこ産業（JT）跡地の取得について説明させて頂きたい。7 月 24 日に日本たばこ産業と千葉城町の同所跡地の売買契約に向けた覚書を締結したところ。平成 32 年 4 月までに売買契約の締結に向け協議することとしており、この覚書では時期の目途を平成 32 年とし、それまでの間は無償の賃貸借契約を結ぶこととしている。当面は熊本城の復旧工事に必要なストックヤード等として活用し、その後は保存活用委員会をはじめ関係の方々の意見を幅広く拝聴しながら、利活用を図ってまいりたい。現在、合同庁舎跡地では解体工事が進んでおり、今後特別史跡への追加指定後、所管する文化庁と解体後の土地の取扱について調整</p>
-----	---

	を行っていく予定となっている。
永田委員	JT もさることながら、NHK の跡地も市民の興味の的だが、今のところ全く白紙ということか。
事務局	NHK については、今お話できる状態ではない。しかるべき時期にしかるべき形で、と思っている。私どもとしてコメントできるところはない。
谷崎委員	商工会議所です。先ほど JT 跡地の話があったが、これについては我々からも商店街との連携で要望書を出している。今お話のあった NHK 跡地の問題についても、城内の一地域ということで文化財的な意味合いもあるだろうが、私どもとしては是非今後、熊本の観光の意味合いで活用させていただきたいという思いもある。あるいは、元々そこが熊本城の正面だったという話を聞くので、そういった意味での公園としての利用。色んな利活用についてはそのままの形で更地を残すということではなく、そういった意味での利活用をお願いしたい。合同庁舎についても文化庁との厳しい調整があると思う。城彩苑の 20 年という期限の問題も、今私も初めて理解したが、城彩苑の問題と合わせて、我々の仲間の方でも合同庁舎跡地は何らかの駐車スペースとしての利用ができないかと思っている。観光面という観点からも利活用については十分な検討をいただきたい。文化庁との折衝のなかでも、我々としては有効な資源としての活用をさせていただきたいという思いもあるので、よろしくをお願いしたい。
事務局	機会をとらえて、頂いたご意見を念頭に踏まえて考えていきたい。
西嶋委員	跡地の買取の話や特別史跡指定後の利活用に関連してだが、当然、法令順守で作業が進んでいる部分がある。民間からの申し出によって市は買取を検討する法律に基づいて進んでいる行為については、そういう裏づけの説明を頂いたほうが理解が進む。特別史跡内においても便益施設がどの程度認められているのか、法に規定されているものが厳然たる事実としてあるのであれば、背景を委員に説明して頂いたほうが、委員からもそれも則って何ができるのか、何をすべきなのか明確になってくる。背景になっている法律についても、簡単に次回からご説明頂いたほうが分かりやすいと思うので、よろしくをお願いしたい。

6 閉会